

事務事業名	OSSデスクトップ導入実証事業				担当	総務部 情報システム課 行政情報係			
政策名	G	効率的で市民にわかりやすいまちづくり				電話番号	0285-83-8497		
施策名	01	窓口サービスの向上と事務効率化				<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ			
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 年度～）			
予算科目	1. 一般会計	2. 総務費	1. 総務管理費	1. 一般管理費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（平成17 年度～平成22 年度）			
事業概要	行政業務の電子化による効率化・サービスの向上を図る目的で、自治体においてデスクトップ機器の導入が盛んとなっている。しかし、ソフトウェアライセンスの購入費用や、システム運用費用の負担増加がデスクトップ機器の導入による業務改革・効率化を実現する上における障害となっており、これらの課題を解決するための新たな取り組みとして、OSSを活用したデスクトップ環境の実現、導入に期待が寄せられ、国や地方自治体、学校等による取り組みが増えている。本事業は、このOSSデスクトップ環境の導入を推進する上で存在する阻害要因となっている課題に対応し、OSSデスクトップの活用による自治体業務の効率化・サービス向上の実証を実施目的としている。OSSは、ソフトウェアの設計図にあたるソースコードを、インターネットなどを通じて無償で公開し、誰でもそのソフトウェアの改良、再配布が行なえる。代表的なものに、Linux（基本ソフト）やApache(Webサーバ)、OpenOffice.org（表計算、ワープロ）等がある。								

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 23年度実績 合併後、支所の18台で利用を継続し、コンピュータシステム導入、維持・管理などにかかる費用総額の低減と、セキュリティの確保を図っている。 職員配置の関係で、平成22年度は16台となった。  24年度計画 引き続き支所における15台の情報系端末について事業継続を図り、運用・管理コストの削減を図る。 現状は、OSSを利用できる環境は整っているが、旧二宮で作成した文書の閲覧時に使用するケースがほとんどで、通常時は、本庁と同様にウィンドウズで利用している。	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移																																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>20年度(実績)</th> <th>21年度(実績)</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(実績)</th> <th>24年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 情報セキュリティレベル評価(満足5.0、平均3.5)</td> <td></td> <td>3.2</td> <td>3.2</td> <td>3.2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>イ 利用者のIT利活用能力調査(満足5.0、平均3.5)</td> <td></td> <td>3.8</td> <td>3.8</td> <td>3.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	ア 情報セキュリティレベル評価(満足5.0、平均3.5)		3.2	3.2	3.2			イ 利用者のIT利活用能力調査(満足5.0、平均3.5)		3.8	3.8	3.8			ウ							エ							オ					
名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)																																										
ア 情報セキュリティレベル評価(満足5.0、平均3.5)		3.2	3.2	3.2																																												
イ 利用者のIT利活用能力調査(満足5.0、平均3.5)		3.8	3.8	3.8																																												
ウ																																																
エ																																																
オ																																																
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 二宮支所における、LGWIAN、インターネット接続を行い、職員が日常的な非定型業務に利用する情報系端末（18台）。	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移																																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>20年度(実績)</th> <th>21年度(実績)</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(実績)</th> <th>24年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア OSSデスクトップ端末</td> <td></td> <td>18(147)</td> <td>18</td> <td>16</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>イ OSS情報端末利用者数</td> <td></td> <td>18(147)</td> <td>18</td> <td>16</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	ア OSSデスクトップ端末		18(147)	18	16			イ OSS情報端末利用者数		18(147)	18	16			ウ							エ							オ					
名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)																																										
ア OSSデスクトップ端末		18(147)	18	16																																												
イ OSS情報端末利用者数		18(147)	18	16																																												
ウ																																																
エ																																																
オ																																																
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 情報系デスクトップ端末の調達、運用管理に伴う経費の節減と、情報セキュリティの確保、利用者自身のIT利活用能力の向上	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移																																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>20年度(実績)</th> <th>21年度(実績)</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(実績)</th> <th>24年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 情報セキュリティの確保(LASDEC評価ツール平均2.5)</td> <td></td> <td>3.2</td> <td>3.2</td> <td>3.2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>イ 情報端末保守費用</td> <td></td> <td>1,036</td> <td>210</td> <td>209</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	ア 情報セキュリティの確保(LASDEC評価ツール平均2.5)		3.2	3.2	3.2			イ 情報端末保守費用		1,036	210	209			ウ							エ							オ					
名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)																																										
ア 情報セキュリティの確保(LASDEC評価ツール平均2.5)		3.2	3.2	3.2																																												
イ 情報端末保守費用		1,036	210	209																																												
ウ																																																
エ																																																
オ																																																
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 情報系デスクトップ端末の運用管理に伴う経費の節減地方自治情報センター(LASDEC)が提供する情報セキュリティレベル評価ツールで全国平均以上を確保すること。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移																																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>20年度(実績)</th> <th>21年度(実績)</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(実績)</th> <th>24年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 日経BP社 旧二宮町e都市ランキング</td> <td></td> <td>91</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>イ Windows端末を100とした運用コスト</td> <td></td> <td>40.0</td> <td>40.0</td> <td>40.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	ア 日経BP社 旧二宮町e都市ランキング		91	-	-			イ Windows端末を100とした運用コスト		40.0	40.0	40.0			ウ							エ							オ					
名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)																																										
ア 日経BP社 旧二宮町e都市ランキング		91	-	-																																												
イ Windows端末を100とした運用コスト		40.0	40.0	40.0																																												
ウ																																																
エ																																																
オ																																																
(2) 総事業費の推移																																																
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0																																							
			県支出金	千円	0	0	0	0	0																																							
			地方債	千円	0	0	0	0	0																																							
			その他	千円	0	0	0	0	0																																							
			一般財源	千円	2,230	210	209	0	0																																							
			事業費計(A)	千円	2,230	210	209	0	0																																							
人件費			正規職員従事人数	人	2	2	2	0	0																																							
			延べ業務時間	時間	80	80	80	0	0																																							
			人件費計(B)	千円	334	324	341	0	0																																							
			トータルコスト(A)+(B)	千円	2,564	534	550	0	0																																							

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	旧二宮町で2005年度に実施中であつた「行財政緊急改革実践プラン」に基づき、5年間で人件費、物件費、維持補修費及び投資的経費の30%削減を目標とし、サービスを低下させずにIT予算の大幅な縮小を行う必要に迫られたためOSSデスクトップ導入実証事業を開始した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	合併に伴い、役場全体147台から支所18台へ1/8程度の事業規模となった。 利用者自ら操作方法を学び、問題解決を図る動きが高まり、結果的に利用者のITリテラシが大幅に向上した。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	旧二宮町の利用者アンケートによれば、Windowsに戻す意見は7.3%にとどまり、積極的に「使って慣れる」との意見が36.6%でアンケート結果の主流であつた。ただし、ファイルサーバに保存されたExcelを抽出しVBAマクロの互換性を検証したところ、25%のマクロに互換性がないため、国の調査報告作成業務時だけ、Windows端末の利用要求が出された。

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 事務の効率化、経費削減、セキュリティ確保を目指す実証事業であることから、本市の政策に合致する。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある この事業によって、ITシステムの調達、運用時のコスト削減や、利用者の利用技術向上に関するノウハウを取得できており、併せて高いレベルのセキュリティ確保が行えた。今後も事業を継続することで組織全体のITシステム運用管理、利用者教育等に役立てられる。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 旧二宮町役場全体を対象とした継続事業であり、現状の事業規模が適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 旧二宮町役場における情報資産に合わせた導入設計を行っているため。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない OSSデスクトップ導入実証事業が完了できない。また、契約先である独立行政法人情報処理推進機構(IPA)に対する契約変更(費用返還)の影響が発生する。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある OSSデスクトップとその管理サーバを運用するために必要な基本ソフト(OS)の費用であり削減できない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 情報系システムを適切に運用管理するために必要最低限の人件費となっている。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 受益者負担はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							